

EUR / JPY ユーロ円 月次レポート

前月振り返りと2026年6月の相場展望

発行日

June 1, 2026

対象期間

5月実績 / 6月展望

通貨ペア

EUR / JPY

発行頻度

Monthly

5月末レート（終値）

185.669

▲ +1.05%（5月月間騰落）

5月高値

185.977

5月安値

182.030

ECB金利

2.00–2.15%

BOJ金利

0.75%

今月のハイライト

5月は183.75円から185.67円まで上昇し月間+1.05%。日銀の連続据え置きを背景に、既存の日欧金利差（約1.25～1.40pp）が引き続き円売り・ユーロ買いを支援

ECBは4月30日会合で政策金利を据え置き（預金金利2.0%・主要オペ金利2.15%）。中東情勢によるエネルギー高がインフレ上振れリスクとして意識された

ラガルド総裁が「利下げよりも利上げ議論が現実的」と示唆。市場は6月11日ECB会合での0.25%利上げを60～70%の確率で織り込み始めている

6月11日 ECBと6月16日 日銀会合がわずか5日差で開催。両方向のサプライズが重なった場合の急激な変動リスクに要注意

6月 基本シナリオ レンジ

182 – 187円

ECB・日銀会合が相場の方向性を決定（確率45%）

日欧政策金利差

1.25–1.40pp

ECB利上げなら1.50ppへ拡大の可能性

始値

183.751

5月1日

高値

185.977

月中最高値

安値

182.030

月中最安値

月間騰落

+1.05%

+1.918円

5月の相場動向

5月のユーロ円は183.75円でスタートし185.97円まで上昇、月間+1.05%の円安・ユーロ高。日銀・ECBともに政策金利を据え置く中、既存の日欧金利差（ECB 2.00～2.15% vs BOJ 0.75%、約1.25～1.40pp）が引き続き意識され、円売り・ユーロ買いが優勢となった。安値は182.03円で、日銀利上げ期待や米イラン合意観測による円高局面がこの水準を形成した。

ECBは4月30日会合で**政策金利を据え置き**。しかしラガルド総裁は会見で「インフレリスクへの対応として利上げ議論が現実的」と述べ、市場は**6月11日ECBでの0.25%利上げ**（預金金利2.0%→2.25%）を60～70%の確率で織り込み始めた。

主要イベントの影響

EU ECB 4月30日会合

- 預金金利**2.0%**・主要オペ**2.15%**を据え置き
- 中東情勢によるエネルギー高でインフレ上振れリスク認識
- ラガルド総裁：「利上げ議論が現実的」と発言

JP 日銀 4月28日会合

- 0.75%**を3会合連続で据え置き（2026年1月・3月・4月）
- 中東情勢の経済影響を見極める姿勢を強調
- 6月16日会合での利上げ観測が浮上中

5月の総括

5月は「**ECB利上げ期待 vs 日銀据え置き**」の構図がユーロ高・円安をサポートした月。日欧金利差（最大約1.40pp）の存在が円売り需要を維持し、月間+1.05%と着実に上昇。**6月は5日差でECB・日銀会合が開催**され、相場の方向性が大きく決まる可能性がある。利上げ実施となればさらなる金利差拡大でユーロ高、日銀が利上げを示唆すれば一転して円高が急進するリスクも。

6月の注目ポイント

6月の最大の焦点は①**6/11 ECB会合**での利上げ実施の有無（市場は60～70%の確率で織り込み）、②**6/16 日銀金融政策決定会合**での利上げシグナルの有無の2点。特に両会合が5日差で開催されるため、ECBが利上げ・日銀が据え置きならユーロ円は186～191円へ上昇余地が広がる一方、ECB据え置き・日銀利上げ示唆の逆パターンでは急落リスクもある。ユーロ圏の製造業PMIや英仏独の景況感指標も注目材料となる。

シナリオ別レンジ予測

強気	30%	ECB利上げ実施で日欧金利差拡大、ユーロ高・円安加速	186 - 191円
基本	45%	ECB据え置き・日銀据え置きでレンジ内推移	182 - 187円
弱気	25%	日銀利上げ示唆・ECBハト派転換でユーロ円急落	176 - 183円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
ECBが6/11に0.25%利上げ実施	高	ユーロ高	日欧金利差が約1.50ppに拡大しユーロ円に上昇圧力。186～191円方向へ
日銀が6/16に利上げシグナル	中	円高	円ショート巻き戻しで180円方向への急落リスク。ECB利上げ分も吹き飛ばす可能性
ユーロ圏製造業PMIの悪化継続	中	ユーロ安	エネルギー高騰が欧州製造業を直撃。景気後退懸念でECBの利上げ余地が限定され上値重い
米イラン核合意の進展	中	双方向	原油安→ユーロ圏インフレ上振れリスク後退→ECB利上げ観測が弱まればユーロ安・円高要因。一方、リスク選好の改善は円売り要因にもなり得るため、影響は一方に断定しにくい

6月の見通し

基本シナリオは**182～187円のレンジ推移**（確率45%）。ECB利上げ確率が高く（60～70%）、実施なら日欧金利差拡大でユーロ円の上昇余地が広がる。ただし**6/16日銀会合で利上げシグナル**が飛び出せば一転してユーロ円急落も。5日差で開催される両中銀会合の週は**ボラティリティが大幅に高まる**可能性があり、ポジション管理に十分な注意が必要。

用語解説

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏19カ国の中央銀行。年8回の政策理事会で金利を決定。中銀預金金利2.0%・主要オヘ金利2.15%。次回は6月11日。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。現在0.75%を維持中。次回は6月16日。段階的な利上げ（正常化）路線を継続していません。

製造業PMI

製造業の景況感を示す**購買担当者景気指数**。50超が景気拡大、50割れが縮小を示します。ECBの政策判断に影響します。

ラガルド総裁

ECBの**総裁（2019年11月就任）**。政策会合後の記者会見での発言が為替市場に大きな影響を与えます。

政策金利 / 金利差

中央銀行が景気・物価調整のために設定する**基準金利**。日欧金利差が現在約1.25～1.40ppとユーロ高・円安要因となっています。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）を借りて高金利通貨で運用し**金利差から利益を得る取引**。リスクオフ時に一斉解消（巻き戻し）で円高が急進することがあります。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。